

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校 長 教 頭 教 頭	猪子秀太郎 坂本 美恵 中村 敏恵
学力向上推進員	教諭(高等部長)	宮本 哲也
委員	教諭(小学部長) 教諭(中学部長) 教諭(教務課長) 教諭(研究課長)	今井 光子 後山 真吾 松田 史子 中村 加世

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

小 学 部 児 童 の 状 況			
よ こ	毎日繰り返し行っている活動や日常生活につながる学習内容については、理解・定着が進みやすい。	課題 獲得した基本的な生活習慣や知識・技能を、学校生活の他の場面や人、家庭生活で般化することが難しい児童が多い。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
キャリア教育の視点から、日常生活に必要な自分の身の回りのことをできるだけ自分で行うことができる。		個別の指導計画の短期目標設定時に、「日常生活の指導(朝・給食・帰り)」の日常生活チェックシートを活用して、目標を1つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の85%以上になる。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
「日常生活の指導(朝・給食・帰り)」の日常生活チェックシートを活用して実態を把握し、個別の指導計画の短期目標を設定する。		個別の指導計画において「日常生活の指導(朝・給食・帰り)」の日常生活チェックシートを活用して、現状の課題から1つ以上短期目標を設定する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			

中 学 部 生 徒 の 状 況			
よさ	学校生活全般において意欲的に取り組む様子が見られ、学習の理解や定着が進みやすい。	課題	高等部や卒業後の進路や生活についてのイメージがもちにくく、今後の生活に役立つ、身につけておくべきスキルがわかりにくい。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
キャリア教育の視点から、高等部やその先の生活と、今身につけるべき課題を意識して学習に取り組むことができる。		日常生活の指導(身近自立に関する事、掃除に関する事)について、チェックシートを活用して個別の指導計画の目標を設定し、目標の達成率が80%以上になる。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
「チェックシート(朝・給食・帰り)」または「掃除のチェックシート」で実態を把握し、そこから日常生活の指導の目標を設定し、指導を行う。「自立活動」でも個別にスキル獲得についての指導を行い、日常生活の指導での般化を図る。 ----- * 中間期の見直し		「チェックシート(朝・帰り・給食)」または「掃除のチェックシート」から課題を取り出し、「個別の指導計画」の中に1つ以上目標が設定されているかチェックする。	
達成状況を踏まえた改善事項			

高 等 部 生 徒 の 状 況			
よさ	学校生活全般において学習活動に意欲的に取り組む生徒が多い。	課題	生徒の能力差が大きく、生活・学習面ともに配慮が必要である。 学習内容が定着しにくい生徒が多いため、繰り返し学習の場を作ることが必要である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
社会で必要とされる力として ①あいさつ・返事・報告・質問等のコミュニケーション能力の向上に取り組むことができる。 ②共同・協働・協力してものごとに取り組むことができる。		「個別の指導計画」において、コミュニケーション能力・社会性の育成に関する項目の評価が向上した生徒が80%以上となる。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
生徒一人一人の特性を把握し、実態に合わせて、指導内容・方法を設定する。自立活動の授業等で意識付けを行い、作業学習等で般化できるよう支援する。 ----- * 中間期の見直し		生徒の実態に応じた、コミュニケーション能力・社会性に関する項目を個別の指導計画の目標として設定する。	
達成状況を踏まえた改善事項			